

Ver 1.00

グランドマスター アセトニトリル

=====

[illegible][illegible][illegible]

料 理 献 立 表

(一) 一 般 的 手 段

- 1 直接マッチにて放火す。
- 2 目的物に石油又は、揮発油をさん布しマッチにて放火する。
- 3 脱 脂 綿。
- 4 カーバイドを利用放火す。
- 5 竹様にワラを結び、或いは竹ぼうきに揮発油をひたし倉庫のトビラを破壊し、破目より点火したものを押入放火す。
- 6 マッチの軸木の硫黄部の現出する如く約八分抽出し点火せる煙草をおく。
- 7 石油のひたしたる紙くずの上にマッチ数十本を結びつけ、その上に線香をおき点火する。
- 8 綿花の中に黄リンマッチを押入する（綿花の輸送によるマサツで発火する。）

(二) 化 学 的 方 法

1 製品の特性用途

△塩素酸加里（別名塩酸加里、塩剤、クロール酸加里）

外 観 特 性 無色とう明の結晶又は白色粉末にて水に溶解す。砂糖、硫黄
その他燃焼物質とのマサツ、強打撃により爆発す。

用 途 爆薬、マッチ、火、雷管などの製造原料

備 考 殆んど放火、爆弾、爆破などに一般謀略には殆んど使用された。

△クロム酸カリ、有毒物

外 観 特 性 帯黄色とう明の結晶にして水に溶解す。哲味。

用 途 花火製造、電気工学、染色、酸化剤として使用す。

備 考 爆弾等に使用された。

△硝 石

外 観 特 性 無色、柱状の結晶又は白色結晶性粉末にして水に溶解易し、冷感性ふう味あり。

用 途 火薬、花火製造、医薬。

備 考 黒色火薬の原料にして主として爆発事件の際又は手りう弾内爆薬として使用された。

△鶏冠石 有毒性（別名ニ硫酸化ヒソ、赤色硫化ヒソ）

外 観 特 性 タイ黄色の粉末にして水に溶けず、塩素酸加里と混合し使用するときはもう烈なる爆発力を有す。

用 途 花火、弾丸製造、顔料。

備 考 爆弾、放火に使用された。

△ピクリン酸 激毒物（黄色）

外 観 特 性 黄色の結晶にして水に溶解す。金属及び金属性酸化物を接触せば爆発す。

用 途 爆薬、絹の染色、医薬。

備 考 時計仕掛爆弾並びに鉄道爆破用薬品として使用された。

△黄 燐 有毒物

外 観 特 性 淡黄色、状半とう明、結晶性の固体、暗所にて燐光を発す、空気中にて自然発火す。水に溶解せず。

用 途 マッチ製造（現在イタリー、中国以外の諸国においては黄燐使用の燐寸製造禁止）

備 考 棉花に対する放火用として最も使用された。

△マグネシウム

外 観 特 性 銀色可鍛性のややかたき金属なり、烈しく白色のせん光を上げて燃焼す。水に溶解せず。

用 途 花火、写真用せん光粉、合金。

備 考 時計仕掛放火を始め殆んど各放火に使用された。

△硫 黄

外 観 特 性 黄色のもろき固体又は黄色粉末にして水に溶解せず、点火すれば黄色の焰を上げて燃焼す。

用 途 火薬製造、マッチ製造、硫酸製造。

備 考 時計仕掛放火を始め各種放火に使用された。

△過マンガン酸加里 劇薬物（別名過満剥）

外 観 特 性 紫黒色の乾きたるリョウ柱状の結晶にして金属のような光沢あり、水に容易に溶解して、稀数のときは黄色を呈す。燃焼しやすい物質に研和すれば発火爆発す。

用 途 消毒剤、化学用、木材着色用。

備 考 放火薬として使用された。

△硫酸 劇毒物（別名緑油）

外 観 特 性 強烈なる腐蝕性を有する濃厚油状の液体、純度により無色乃至暗かつ色となる。水に熱を発して溶解す。

用 途 爆薬、化学用、人造肥性、石油の精製。

備 考 塩素酸加里を使用せる放火には殆んど使用しありすなわち塩素酸加里、砂糖の混合薬に作用せしめる時は僅か一てきにて発火する。

△砂 糖 普通物、乳糖を用うるなど多し、塩素酸加里と混合せば鋭敏なる火薬となる。

△木 炭 粉 普通物、燃焼剤として功をそうする。

△そ の 他 揮発油、靴クリーム、セルロイド、アルミニウム等を使用せり。

2、爆破、放火用としての薬品の調合方法

従来の共産文献（主として中共関係並びにソ連将校の教育せるもの）中より抜すいたもの次の通り。

薬 品 名	配 合 %	性 能
▽塩 素 酸 加 里	七五	起爆、放火
砂 糖	二五	〃 〃
▽塩 素 酸 加 里	七〇	〃 〃
砂 糖	二九	〃 〃
樹 脂	一	〃 〃
▽塩 素 酸 加 里	七八	〃 〃
炭酸ストロチウム	一五	〃 〃
樹 脂	七	〃 〃
▽塩 素 酸 加 里	六六	破 爆
アルミニウム	二四	〃 〃
樹 脂	一〇	〃 〃

▽塩 素 酸 加 里	七五	〃	〃
------------	----	---	---

(↑編注：原版ではなぜかこの「塩」だけ旧漢字だった)

アルミニウム	五	〃	〃
--------	---	---	---

酸 化 鉄	八	〃	〃
-------	---	---	---

過酸化マンガン	一二	〃	〃
---------	----	---	---

▽塩 素 酸 加 里	七五	爆 破
------------	----	-----

酸 化 鉄	一八	〃 〃
-------	----	-----

黒 鉛 粉	七	〃 〃
-------	---	-----

▽塩 素 酸 加 里	七五	爆破、放火
------------	----	-------

酸 化 鉄	八	〃 〃
-------	---	-----

過酸化マンガン	一二	〃 〃
---------	----	-----

木 炭 粉	三	〃 〃
-------	---	-----

樹 脂	二	〃 〃
-----	---	-----

▽塩 素 酸 加 里	四五	〃 〃
------------	----	-----

甘 汞	三五	〃 〃
-----	----	-----

炭 酸 銅	一〇	〃 〃
-------	----	-----

木 炭 粉	五	〃 〃
-------	---	-----

樹 脂	五	〃 〃
-----	---	-----

▽酸 化 塩	七〇	起爆、放火
硫 黄	二〇	〃 〃
硫酸アンチモニ	七	〃 〃
樹 脂	三	起爆、放火
▽硝酸ナトリウム	七〇	〃 〃
硫 黄	二〇	〃 〃
硫酸アンチモニ	七	〃 〃
燈 火 煤	三	〃 〃
▽硝 石	七五	爆 破
硫 黄	一四	〃
木 炭 粉	一一	〃
▽ニトログリセリン	一〇〇	〃
▽ピクリン酸	一〇〇	〃
▽硝酸ナトリウム	七〇	起爆、放火
硫 黄	二〇	〃 〃
硫酸アンチモニ	七	〃 〃
樹 脂	三	〃 〃

3、放火謀略の実例

- A 塩素酸カリ七五%又はパラフィン二五%（靴ズミを代用したこともある。）の混合物をナベに入れ加熱溶解し一定の函型に流しこみ、凝結せしめ固体となす。この際硫酸を注入しある小ビンを押入し得る程度の孔を穿つため丸型棒を押入し置き凝結せる際これを抜きとり、該混合の薬品の孔中に引火剤として塩素酸加里五〇%砂糖五〇%を混合せる粉末少量をいれ、一方小ビンに硫酸を注入しビン口をバンソウコウ或いは薄ゴムをもつて覆いたる上、糸にてしばりこれを前記混合薬品の孔中内に押入しこれを更に石けん小函、キャラメル空函、煙草空函に入れ擬装し、装置する際には硫酸ビン口を下方に向け、置くときはビン内の硫酸徐々にバンソウコウ或いは薄ゴムを浸潤腐蝕し数時間乃至数十時間の後、ビン外の右混合薬品内に流出し強烈なる発火作用を惹起せしめ目的を達した。（この例最も多い）
- B 高さ四寸直径二寸の瓶内に硫酸四分の一、石油四分の二、揮発油四分の一を注入し之にキルク栓を施し栓には小穴を穿ち内部に塩素酸加里五〇%砂糖若しくは蠟（編注：原版では旧漢字）五〇%の比率にて混合せる粉末を引火剤として押入し小孔両端をバン創コウをもつて覆つたもので装置には該瓶を逆倒し、置く時は瓶内にある硫酸は比重の関係によつて瓶口に沈降し、キルク栓に貼付しあるバン創コウを徐々に浸潤腐敗せしめて数時間乃至数十時間の後（バン創コウの薄、厚によつて発火時を異にする）キルク栓内にある引火剤に流出し化学作用により忽ち強烈なる発火作用を惹起せしめ、いずれも目的を達した。
- C 蠟（編注：原版では旧漢字）五〇%を加熱液体としこれに石油二五%及揮発油二五%を各流入混合しこれをセルロイド製石鹼（編注：原版では旧漢字）入蓋中央部に小孔を穿ち砂糖、塩素酸加里を各等分に混合せる引火剤を、セルロイド製仁丹容器に入れこれを該石鹼（編注：原版では旧漢字）箱に押入し更に仁丹器上部に小孔を穿ち硝子製小瓶に硫酸を入れ、バンソウコウをもつて覆い。瓶口を下にして前記仁丹器上部の小孔に押入しおく時は、小瓶内にある。硫酸は瓶口に沈降しバンソウコウを徐々に浸潤腐蝕し、数時間乃至十数時間の後に仁丹容器の中にある引火剤に流出し、化学作用により強烈な発火作用を惹起せしめて目的を達した。

4 時計仕掛の放火実例

時計（極めて安価な警鐘懐中時計）の硝子板（セルロイドを使用せるもの）に金属棒を立て、一時間以内に点火せしむる場合は分針を残し十二時間以内に点火せしむる場合は時計針を残し、或る時間後に針が移動して金属棒に接触するが如くし、別に連結せる電池（円筒型、小型二個乃至三個を使用す）の一極をこの金属棒に、他の一極を時計の吊環に連結し、他方発火爆破薬内に発火点（豆電球の硝子のみを取り除きたるものを利用）を設け、前述金属棒と時計針の接触により電流通ずれば発火爆発する如く細工してある。その実例二、三を挙げれば次の如し。

実例 薬品は、塩素酸加里、砂糖の混合薬及びマグネシウムは謄写版原紙に、硫黄は西洋紙に包み箱内に納めあり。

5 塩素酸加里を主とする薬品放火の事例

塩素酸加里、砂糖を主剤とせる混合薬に硫酸を注げば発火する原理を応用せるものであつて、通常瓶内或いは小型試験管内に前記混合物に、木炭粉、マグネシウム、アルミニウム或いは、セルロイド等の燃焼剤を混じたものをつめ、一方そのコルク栓に穴をうがちこれに硫酸を入れ、ゴム膜又はロー紙（通常謄写版原紙を使用しあり）をもつて瓶内薬品との間をしや断い或る時間後に硫酸がこれを浸透して滴下することにより発火する如く細工せるものである。

その実例をあげれば左の如くである。

タバコ空箱利用。

空瓶利用 ガソリン 3 | 4、硫酸 1 | 4 を混合し栓をする。表面レッテルには塩素酸加里を塗布す。投擲の際、瓶が破裂し瓶内の右薬品がレッテルにふれると直ちに発火する。

黄燐を主とする薬品放火の実例

黄燐の空気中における自然発火の原理を応用せるものであつて左の三種の方法が使用された。

- (1) 瓶中に揮発油と共に黄燐を入れ、一方コルク栓内に孔を穿つて塩素酸加里及び砂糖の混合薬を充溢（編注：原版では旧漢字）し、その下にロー引紙にてしや断して硫酸をゴム膜につつんで下げ、硫酸が上方へ浸透して発火し、その火力をもとに揮発油にうつり、次に瓶が破れ黄燐は空気中に飛散して発火する如く、即ち二段構式放火装置。
- (2) 瓶中に揮発油と共に黄燐を入口をゴム膜にてなしそのゴム膜に小孔を開けて瓶を逆にすれば揮発油が流出し終れば黄燐は空気に触れて発火する如く装置す。
- (3) ボール箱内に塩素酸加里と砂糖の混合薬をつめ、その上部に棉花を入れ、放火に当つては別に瓶に準備せる黄燐をその綿に注ぎ染まして箱を投擲すれば黄燐は空気にふれ発火し下部薬品に点火する如く装置す。

而して右のうち(3)の装置は垣根越し、塀越し等に内部に積載しある棉花、乾草など燃焼し易きものに投擲放火する場合に使用された。その実例は次の如くである。

◎目的物に投擲する場合は空気にて自然発火する。

硫酸が上部の塩素酸加里と砂糖の混合物に作用すれば下の揮発油に移り、又燐は外部へとび出して外気にかかり発火す、小口瓶は表面に紙をはつて日光の直射をさく。（使用の際は逆倒し）

試験管使用（使用の際は逆倒し）

「料理献立表 Ver 1.00」についての注意事項

記

▼ 壹 ▼

「料理献立表 Ver 1.00」（以下本稿）は、「内容の改変は一切認めないが再配布は無制限に認める」フリードキュメントとする。したがって、本稿をインターネット、パソコン通信、BBS（営利、非営利を問わず）などへの転載、雑誌・書籍などへの掲載・添付は、内容を改変しない限り、自由に行って良い（ただし、このreadme.htmlも同時に転載・掲載・添付すること）。転載・掲載・添付の報告も不要である。バージョンアップ時の転載先に対するフォローについては、強制はしないがなるべくやってほしい。

と言いたいところだが、引用部分の著作権は原著作者（誰だかわからん）が保持しているので、そのへんは諸君の良識に任せる。くれぐれも間違いの無いように。

▼ 貳 ▼

壹における「内容の改変」とは、「削除、追加、入れ替え、改行」などの編集行為をいう。ただし、ダイナミックHTML化やヘルプファイル化、理解を助けるための画像ファイルの添付、読みやすくするための「倍角化」「色付け」、それに伴うファイル名・拡張子の変更は、この「内容の改変」には当たらないとする。

▼ 参 ▼

これは一応文化事業です。いちいち目くじら立てると健康に悪いよ！！

▼ 四 ▼

本稿は汎用性を持たせるため、テキストベースで作成してある。ダイナミックHTML化やヘルプファイル化などの構想はあるものの、目処が立っていないので、技術力のある人はガンガンやっていただいて結構。また、漫画のネタにすることも可とするので（笑）、画力のある方はガンガンやっていただいて結構。もちろん外国語に翻訳することも可とするので語学力のある方はガンガンやっていただいて大いに結構。

と言いたいところだが、引用部分の著作権は原著作者（誰だかわからん）が保持しているので、そのへんは諸君の良識に任せる。くれぐれも間違いの無いように。

▼ 伍 ▼

本稿のコンセプトは、「優れた文化遺産を後世に遺す」である。

▼ 六 ▼

間違っても本稿を参考にして謀略放火の「実験」をするなどという馬鹿なことはやめましょう。やめてください。やめてくれ。おい、やめろ！

▼ 七 ▼

本稿を使用した結果生じた如何なる損害も保証しない。

以 上

秘密結社 反帝反スタ情報開発

グランドマスター アセトニトリル

=====

料理献立表 改変履歴

=====

Ver 1.00 とりあえず形になる

著者・発行者	秘密結社 反帝反スタ情報開発 グランドマスター アセトニトリル
発行所	秘密結社 反帝反スタ情報開発 東京都新宿区西新宿7丁目893番地 メラノーマビルディング69階